

# 1

## おなじ形がにている音をあらわす音記号

漢字はもともと中国のことばをあらわす文字としてつくられた。ことばは人のくらしをうつしとってつくれる。人のくらしにそれまでにないものごとができれば、それをあらわすことばが生まれ、あたらしい漢字がつくられた。いま、**甫**と**圃**というおおもとの漢字をとりあげ、それがふえていくとき、形や音や意味がそれぞれどんなかわりかたをするかみてみよう。



たぐきもの  
ふたはなれたかみ  
まじはなれたかみ  
しほき



ホ・フ  
ふたはな  
ななき  
はなき  
はこめ

ho・hu



ホ  
はたけ

ho



ホ  
おきり  
ついろ

ho



ホ  
つかまら

ho



ホ  
つかま

ho



ホ  
うら

ho



ホ  
かき

ho

●**甫**は、**へ**の根をかこむ形から

できたかたどりの文字だ。だから、**甫**をしばったり、かこったり、つかんだり、ひろく植えたりする意味をもっている。そこから、**へたんぼの圃**、**へつかまらるの圃**、**へひろいはまの圃**、**へぬのをしいてついろの圃**、**へ品物をしきならべるお店の圃**、**へ車のそえ木をたすけるの圃**などの漢字がつぎつぎにつくられた。

●やがて、**甫**に**手**のはたらきをあらわす**扌**をつけて、**へ**物を**手**でうつてうすくひろげる**と**いう意味の**專**つができた。そして、**扌**と**専**は、この**専**がもとになって、**へ**なえぎを植え、これを**手**でうつて土をかためる**の**の**敷**、**へ**なえぎをひろくしきひろめる**の**の**博**、**へ**手でうつてうすくひろげる**の**の**博**、**へ**手



つがはな  
つかま



ホ  
かき

hu



ホ  
ひら

hu



ホ  
ひろ

haku



ホ  
うす

haku



ホ  
つか

baku



ホ  
しほ

bo



●**甫**は、**へ**の根をかこむ形から

できたかたどりの文字だ。だから、**甫**をしばったり、かこったり、つかんだり、ひろく植えたりする意味をもっている。そこから、**へたんぼの圃**、**へつかまらるの圃**、**へひろいはまの圃**、**へぬのをしいてついろの圃**、**へ品物をしきならべるお店の圃**、**へ車のそえ木をたすけるの圃**などの漢字がつぎつぎにつくられた。

例

洞	吟	鋼		

（例の漢字は仮名遣い）

棋 房 層 額 格 盤 刊 賀 銅 架 琴 基 筒 欺 汗 芳


## 2 母音ぼおん（ア、イ、ウ、エ、オ）でゆるる音記号おんきごう

日本語では、どの音も「ん」のはじめ長くのばすと、ア・イ・ウ・エ・オのどれかの音がでるしくみになっている。それで、ア・イ・ウ・エ・オの「ん」を母の音という意味で、母音正片んはんと呼んでいる。ローマ字でかくと、五十音のどれにも、o(オ), y(イ), u(ウ), e(エ), o(オ)の母音がついているのでよくわかる。つぎの野球のベース板のような図は、母音を発音するときの舌のうごきをわかりやすくかきあらわしたものだ。



日本語では、どの音も「ん」のはじめ長くのばすと、ア・イ・ウ・エ・オのどれかの音がでるしくみになっている。

アあは、口を大きくひらいて、舌はあげる。

イいは、口をたいらにひらいて、舌先をたかくもちあげる。

ウうは、口をまるくひらいて、舌先をきたかくもちあげる。

エえは、iよりもひろく口をひらいて、舌先舌をすこしもちあげる。

オおは、aよりも口をすこしせまくし、くちびるをまるめ、舌先舌をすこしもちあげる。

# 2 二つじょうの音をもっている漢字・呉音と漢音

ふつうこの漢字は、二つの音、二つの調をもっている。けれど、漢字のなかには、二つ、ときには、三つじょうの音をもっているものがある。それは、中国から漢字をとり入れたとき、ほかの地方から、べつ々の時代に、ちがう漢字の音を取り入れたからだよ。

はじめに日本にはいつてきたのは呉音で、日本人は五、六世紀ごろ、揚子江の下流一帯でつかわれているこの音をもった。その後、七、八世紀ごろになって、黄河の中流一帯でつかわれていた漢音がはいってきた。平安時代のはじめごろ、政府は、漢音が正しい音だとおふれをだしたりしたそうだが、すでに人びとのくらしのなかにまではいりこんでいた呉音をなくすことはできなかった。

こうして、いまでも二つじょうの漢字の音がつかわれているんだよ。



音記号		漢音		呉音	
現代中国語	漢字	漢音	漢字	呉音	漢字
清い	清	シヨウ	清	シヨウ	清
明か	明	シヨウ	明	シヨウ	明
北	北	シヨウ	北	シヨウ	北
宋	宋	シヨウ	宋	シヨウ	宋
五代	五代	シヨウ	五代	シヨウ	五代
唐	唐	シヨウ	唐	シヨウ	唐
六朝	六朝	シヨウ	六朝	シヨウ	六朝
漢	漢	シヨウ	漢	シヨウ	漢
周	周	シヨウ	周	シヨウ	周
殷	殷	シヨウ	殷	シヨウ	殷

呉音・漢音といっても、もとは二つの漢字をあらわしていた音です。どこかにある音をもっています。そのいくつかは音記号をせりしたときの発音のまじりにしたがってまどめることができます。

## ① 清音と濁音でゆるる呉音・漢音

音記号  
時間の時 **し** **じ**  
年賀の賀 **か** **が**  
詩人の詩 **し**  
参加の加 **か**

漢音  
時間の間 **かん** **げん**  
人間の間 **かん** **げん**

神官の神 **しん** **じん**  
神社の神 **しん** **じん**





### 漢字あそび

(□のなかにどの漢字がはいるかな？ おなじ漢字を2つつかってもいいよ)

① 当□は□列な人でないど招□されなかつたが、いまでは、放浪□人でも、□等

席に招□される。……………時特待詩

② 元□時代には日本全土に広大な□地があつたことが記□にのこっている。……………

緑録祿

③ 本□の染□家が無□になつて、常□ではかんがえられないことだが、□機の内□

識織職

④ 賞□の差がはげしいので、□業をさかんにしたら、人びとから全□の信頼をよせられ、

幅副福富

そのうえ、みんな幸□になつた。



### 漢字あそび

(つぎの漢字から部首をひいたら、どんな漢字ができるかな？)

撮影の撮—扌→最後

郊外の郊—阝→□通

爆発の爆—火→□力

日蝕の蝕—虫→給□

鼓笛の笛—竹→自□

時間の時—日→□院

面積の積—禾→□任

承認の認—言→□者

翻訳の翻—羽→□犬

粘土の粘—米→独□